

地味のあるデザイン —日本の「家具」に導かれて—



■ 小泉誠 (こいずみ・まこと)。家具デザイナー。

- ・ Koizumi Sutudio、「こいずみ道具店」開設。・ 武蔵野美術大学教授
- ・ 小泉誠さんについては、最近まで知らず、新会員の嶋田さんに教えていただき、本を買いました。以下は本の中の小タイトル（抜粋）と小泉さんの作品です。



■第一章 原点



- ・ 学童椅子を集めていた・ 古道具の魅力・ 日本には家具に対する独自の概念がある
- ・ 家具デザイナーとして関わる最大限のスケールは家

■第二章 価値観



- ・ 鉄瓶がこうなった理由・ 現場で生まれるもの・ 大きな影響を受けた瑛瑠（ほうろう）ケトル
- ・ 日本にしかできないことを・ 日本全国が一つの産地として連携していく時代・ 一本の線に責任を持ちなさい
- ・ ミニマムは足し算・ ナンバーワンでなくオンリーワン・「面白いことをやろう」
- ・ 「ちょっと大変」はチャンス・ 企業の価値観の整理、一本の枝を太く育てる
- ・ アイデアが降りてくる精神状態をつくる・ 素材を活かす/ambai の風呂椅子・ 場所を活かす/asahineko の箸置き

■第三章 方法



- ・ 自分のためにつくる・ いろいろな出会いに学んだ・ 提案型のデザインはしない
- ・ デザイナーの信用を取り戻すところから・ デザインは必要とされてやるべきこと
- ・ 本気の恋愛か援助交際なのか・ 自分の力をつけないといつくり手に出会えない
- ・ 価値観を育てることの大切さ・ あくまでもデザイナーという立ち位置で



■第四章 スタンス



- ・ 段取り八分、仕事二分・ デザインは経験、質のよい経験が大切
- ・ 生活のために事業の企業を選ぶ世代・ 自分に合ったスケールで互いをよく知って

■第五章 今



- ・ 生き様を伝えるところ（大学）・ 物事の根本を意識する
- ・ 自分で気づく、自分で決める、だから楽しい
- ・ コンセプトより「感動」が大事・ 時代や情報に影響を受けずに「自分」を見られる
- ・ デザイナーもつくり手と同じリスクを背負う・ 強い点を打つことから
- ・ 「大工の手」PJ・ 家も椅子もモノもみんな「家具」・ 心のつながりを広げていく

